浪花紀桂夕潮

画工 勝川春扇

作者 曲亭馬琴

へ-13
2378
66

浪花桂夕潮

曲亭馬琴戲篇

客有不信佛家報應者。吉謙曰。積善餘慶。積悪餘殃。豈非休咎耶。佛経云。轉輪五道。此賈誼所謂千変万化。未始有極也。若鯀為黄熊。杜宇為鵑鳥。蘷君為龍。牛哀為虎。君子為鵠。小人為猿。黄母為黿。宣武為鱉。鄧艾為牛。徐伯為魚。此非佛家変受異形之謂耶。客曰。邪子才云。豈有松柏後身化為樗櫟者。士謙曰。此不類之説也。変化皆由心。作木豈有心乎。客亦不能難。右隋李士謙。論前後身一篇。乃賛曰。

勝川春扇繪畫
著作堂

遠 3
2378
66

久かたの月出る雲の清き河よう義名衣流れ
をゆかあれかしの月の母のひとかたもなかりけれど
毫乃の海の夢とする月もあれどそこ甚名衣濁りて
国と捨て果ぬ世の中はもあれどそこ甚名衣濁りて
かしこまるべし何ぞ流風のけさくるべきかなる
の書ぶみをこんとこの世の流れの水の底
国の冊をおりふしまるそ文衣なれば餘年のと国まる
ひとりの寄のの仏衣

文化重光協洽年王居門花朝令節脱稿

曲亭馬琴

雲津の長女
二見姫
信濃屋
女房
陣半
帯屋
長右衛門
雲津判官の後妻
朝熊前
長右衛門
坊太

八条の浪人
伊勢嶋張次郎

野郎乃お伴

閻魔大王
お伴の
佐多だの
松田
義三
七

箱
名ぢまち安西直

文政年中のころ
助八三十二三の
お伴
人目のせきを

甲
乙
丙
丁
戊
己
庚
辛
壬
癸

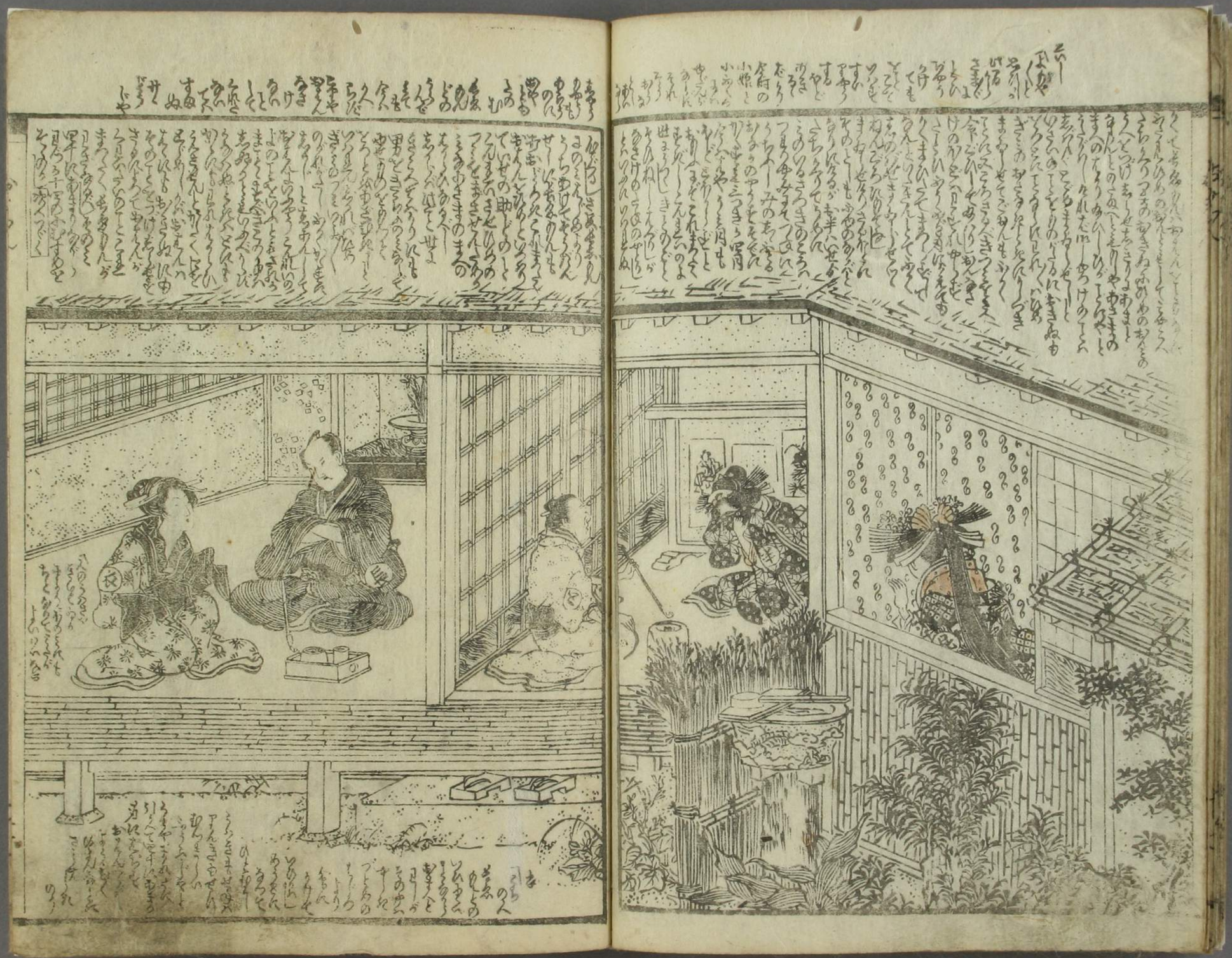
諸国書状摘

ものあて

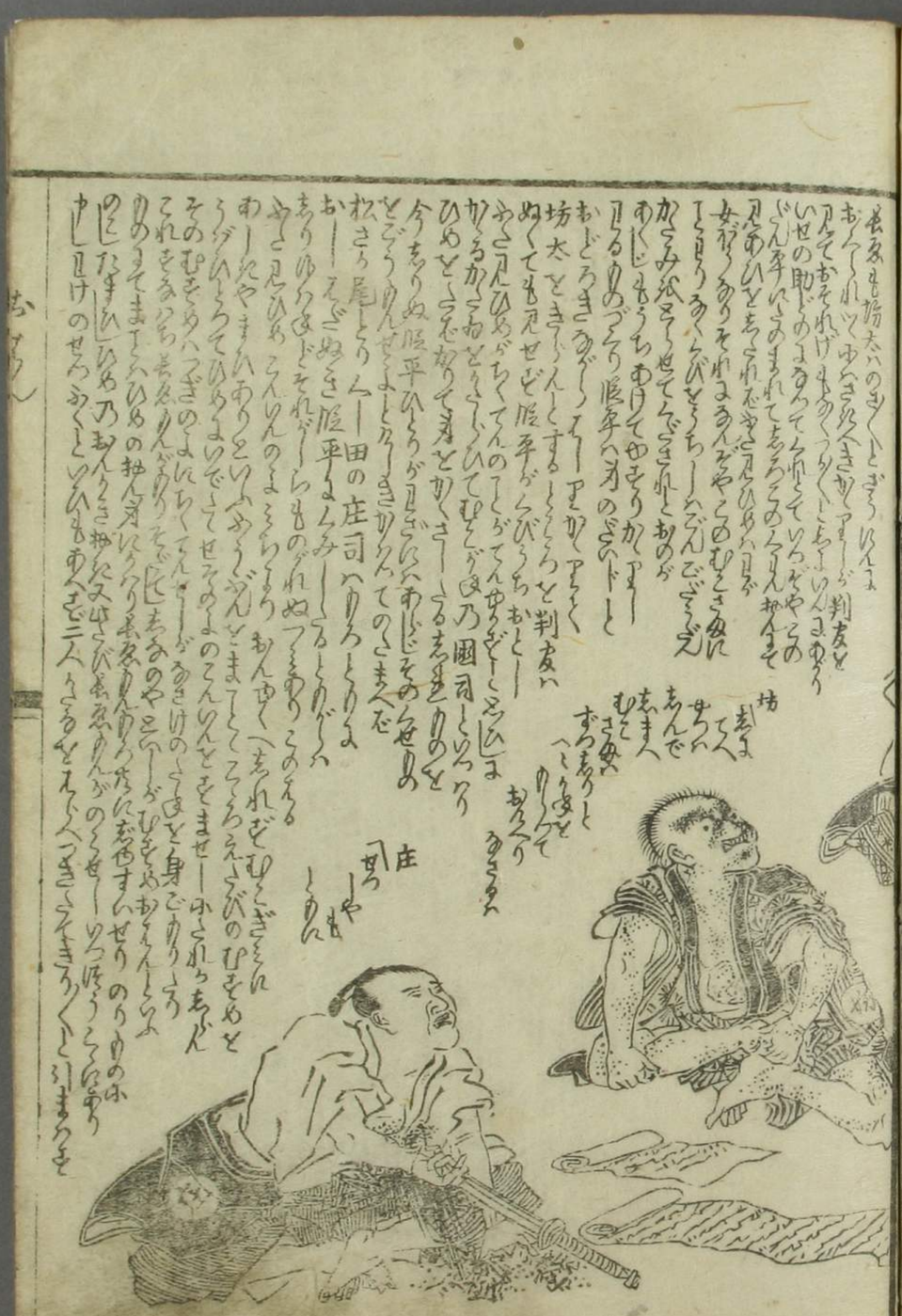
二

春扇画
曲亭馬琴作
德瓶書

四



五



小金吾子彦次郎市 舞臺花曇三番目 全一冊 山東京傳作 歌川豊國画

天地通力 復讐市二三作 雛言始 全二冊 勝川春扇画

吾妻涙五郎 外繋男子鏡 全一冊 山東京傳作 勝川春扇画

浪花北夕霧 傾城道中双陸 全一冊 曲亭馬琴作 勝川春扇画

浦野昔二郎 明烏旭紅深 全一冊 山東京山作 勝川春扇画

楊巻姫六八 七代相續 家櫻霞引幕 全一冊 山東京山作 歌川国貞画

富士出版 冨士出版 美膚雪城木屋 全一冊 東西庵南北作 勝川春扇画

浪花長者 浪花桂夕潮 全一冊 曲亭馬琴作 勝川春扇画

○右之外袋入小冊絵本多品出版仕候 金藏改 女合法憲修行者 全一冊 東西庵南北作 歌川豊清画

右之外袋入小冊絵本多品出版仕候 本地本問屋 江戸芝神明前 和泉屋市兵衛版